

人権だより

今治南高校 人権・同和教育課

2026年7月9日



7月に入り、1学期もまとめの時期を迎えました。これまでの学校生活を振り返り、より良い2学期につなげていきましょう。今回の人権だよりでは、『ハチドリのひとしずく』という民話を通して、「自分にできることを、自分から行うこと」の意義について考えたいと思います。

1 ハチドリの民話が問いかけるもの

「ハチドリのひとしずく」という南米の民話があります。

森で大きな火事が起こった時、多くの動物たちは逃げ出しました。

「自分たちにはどうすることもできない。」「こんな大きな火を、一人で消せるわけがない。」
そう考えたからです。

しかし、一羽の小さなハチドリだけは川へ飛んで行き、くちばしに水を含んでは火の上に落とすことを繰り返しました。

動物たちに、「そんなことをしても意味がない。」と言われても、ハチドリはこう答えます。

「私は、私にできることをしているのです。」

この民話は、「大きな成果を出すこと」よりも、「自分の役割を責任を持って果たそうとする姿勢」の大切さを教えてくれているのではないのでしょうか。

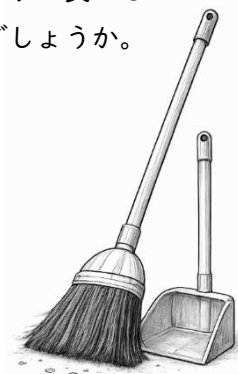
2 学校生活に置き換えてみると

学校生活の中にも、「自分にできること」「自分が果たすべき役割」はたくさんあります。
時間を守ること。提出物を期限までに出すこと。きまりを守ること。そして、校内の清掃活動も、その一つです。

清掃活動は、特別に立派なことではありません。学校という共同生活の場で過ごす一員として、誰もが当然果たすべき役割です。しかし、皆さんの清掃活動への取り組みはどうでしょうか。
こんなことに心当たりはありませんか。

- 時間がきても掃除場所に行けていない。
- 時間いっぱい活動せず、早めに終わってしまっている。
- 友達とのおしゃべりに夢中になって、掃除がおろそかになっている。
- 「誰かがやってくれるだろう」と考え、人任せになっている。

私たちは、「当たり前のこと」を、当たり前に行っているのでしょうか。



3 気持ちよく学べる環境を作るために

「自分一人くらい、少し手を抜いても大丈夫。」「誰かがやってくれるだろう。」

そんな風に考える人がいるかもしれません。しかし学校は、多くの人が毎日を共に過ごし学ぶ共同生活の場です。教室や廊下、トイレなど私たちが使う場所は、みんなで共有している空間です。

だからこそ、一人一人が自分の担当場所に責任を持ち、きちんと清掃に取り組むことが大切です。みんながそれぞれの役割を果たすことで、清潔で落ち着いた学習環境が保たれます。そしてその環境があるからこそ、安心して気持ちよく学校生活を送ることができるのです。反対に、「誰かがやるだろう」「自分くらいはいいだろう」という気持ちが広がれば、学校全体の環境は少しずつ乱れていきます。

清掃活動は、単に学校をきれいにするためだけのものではありません。共同生活を送る一員として自分の役割と責任を果たすことを学ぶ、大切な機会でもあるのです。

4 「誰かがやる」ではなく、「自分がやる」

ハチドリは、「どうせ無理だ」「誰かが何とかしてくれる」とは考えませんでした。火を消せるかどうかではなく、「今、自分にできることをする」という姿勢を貫きました。清掃活動も同じです。「みんながやらないから、自分もしない」ではなく、

「まず自分が、当たり前のことを当たり前にする」

その積み重ねが学校全体の雰囲気を作っていくのです。

5 清掃活動セルフチェック

あなたは日々の清掃活動にどのように取り組んでいますか。次の項目について、自分の取り組みを振り返りましょう。

- ☐ 清掃開始時刻になったら、すぐに取り組んでいる。
- ☐ 時間いっぱい、最後まで取り組んでいる。
- ☐ 友達任せにせず、自分から動いている。
- ☐ 汚れている場所を見つけたら、自分からきれいにしている。
- ☐ 次に使う人のことを考えて掃除している。



当たり前のことを当たり前にする。その行動が、みんなが安心して過ごせる環境を作っていきます。大切なのは、自分に任された役割を責任を持って果たすことです。今日から、できることをきちんとやり切りましょう。学校の雰囲気や環境は、一人一人の小さな行動の積み重ねによって作られていきます。あなたの「ひとしずく」は何ですか。

担任の先生方へ

＜人権・教育相談だより＞の留意点

今回の人権だよりは、『ハチドリのひとしずく』の民話を通して、生徒一人一人が自分の役割や責任について考え、「当たり前のことを当たり前に行うこと」の大切さを見つめ直すことをねらいとしています。以下の点に留意してご指導ください。

- 1 清掃活動は、一人一人が当たり前果たすべき役割であることを確認する。
- 2 一人一人の行動が、安心して学べる学習環境や学校の雰囲気をつくっていることを伝える。
- 3 「私のひとしずく」をキーワードに、2学期に向けた具体的な行動目標を考えさせる。